

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2021-2003	利用 形態	内部研究	利用する 試料・情報	対象:三世代コホート調査に参加した妊婦 約2.2万人 試料:なし 情報:基本情報、調査票情報、生理学的検査情報、ゲノム配列情報(SNPアレイ情報)
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	—
研究題目	GWAS 解析によるつわりおよびつわりのある人の食事パターンと関連する 遺伝要因の検討			研究期間	2021年7月～2026年3月
実施責任者	栗山 進一	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位 教授
研究目的と意義	<p>つわりは母体と胎児の両方の状態と密接に関わっており、妊娠期間中の栄養不足、食道の損傷、メンタル面への影響、早産や出生体重などとの関連が報告されています。つわりには遺伝的要因が関与していると考えられており、海外の先行研究ではいくつかの遺伝子がつわりと関連しているという報告があります。また、つわりがある人となない人の食事は異なっており、その食事内容が遺伝子に左右される可能性が考えられます。</p> <p>本研究では、ゲノムワイド関連解析(genome-wide association study: GWAS)を用いて、日本人におけるつわりと遺伝要因との関連を検証します。また、つわりのある人における食事パターンを抽出し、そのパターンと関連のある遺伝要因を探索することを目的とします。</p>				
研究計画概要	<p>本研究は、東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査に参加している約2万2千人の妊婦さんのゲノム情報、調査票情報、生理学的検査の情報を用いて実施いたします。研究に使用する情報は三世代コホート調査で既に収集済みの情報のみを用います。</p> <p>なお、本研究の成果は、三世代コホート調査の対象者の方々へのニュースレターや学会、論文等で報告する予定です。</p>				
期待される成果	<p>日本人を対象とした遺伝的要因とつわりとの関連を調査した報告は存在しないことから、日本人特有の遺伝的要因が明らかとなる事が期待されます。また、将来的には各個人の遺伝子に応じた食事指導や栄養補助の実現を目指します。</p>				
これまでの倫理 審査等の経過	2021年7月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認				
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	<p>研究の実施に当たっては「人を対象とする生命科学・医学系研究倫理指針」のほか、ToMMoセキュリティポリシーに沿って行います。情報の解析は、ToMMoスーパーコンピュータ内で利用し、外部への持ち出しはありません。</p>				
その他特記事項	東北メディカル・メガバンク事業				
* 公開日	令和3年8月18日				